

## 基盤A 2005年6月13日会議記録

### 1. サーバとライセンスについて

1) 渡辺先生から見積もりを提示。社会工学類サーバ室へおいて学類技官に管理してもらうことになった。了承され、作業進行することとなった。

2) ライセンスその他について、ESRIジャパン矢口氏から、正式ライセンスは遅く開始しそれまでは暫定期間で数十ライセンス程度提供できるという話があった。正確には持ち帰って検討する。

プログラムダウンロードについては、ESRIジャパンからHTMLファイルメニューとともに提供する。サーバにディスクイメージをおいてそこからDLしてもらう形態をとる。

### 2. GEOGRAPHY NETWORKについて (村山提案)

1) 村山代表より、Geography Networkを用いて開発成果を共有するプラットフォームを形成してはどうかという提案があり、続いて、ESRIジャパン矢口氏より紹介プレゼンテーションがあった。ESRI製品 ( ArcIMSとArcSDE ) にデータベースソフト ( 別途購入 ) を組み合わせて、地理データの検索サイトを構築・公開できる。OGC標準プロトコル準拠なので将来性・融通性がある。

#### 2) 質疑応答は以下の通り

・質問：ESRIのGNJとどう違うのか、相互運用の可能性は？

→回答：どこまで公開するか、メタデータをお互いに融通するかどうかの違い。

・質問：地図データの著作権と公開範囲は？

→回答：オリジナル著作者の指定に従う。授業に限定して使わせることができる場合もある。

・質問：必要な作業は？

→回答：

( 1 ) ArcIMS・ArcSDEのインストール、RDBMSの購入とインストール。これはESRIジャパン側で請け負うことも可能。費用等については検討を要す。

( 2 ) 検索ページの構築：カスタマイズする場合、スキルが必要。

( 3 ) メタデータ作成：ユーザの手作業。

( 4 ) メタデータの登録：ArcIMSへのデータ登録にはArcInfoの同一バージョン版が必要。ジオデータベース形式にする。トポロジの構築は必須ではない。

### 3) ERSIジャパン側からの追加コメント:

- ・載せられるデータがどれだけあるのか、確認しておくべき(費用対効果の点で)
- ・運用上は手順をはっきりさせて、アルバイトでも作業ができるように。

### 3. 個別研究について(村山)

・個別研究は自由に進めていただきたい。東大岡部科研との分担は、教材と教授法はこちら、コアカリキュラム(枠組み)はあちらということ。

- ・勉強会を定期的にもちたい。

→検討の結果、次の通り決めた:

- ・場所は総合研究棟Bで鈴木先生を世話人として開催すること
- ・第1回は7月14日木曜午後3時から渡辺先生のご発表を中心に行うこと

### 4. その他

・サイトライセンス正式運用開始時になにがしかの披露イベントを行うことについて検討してゆく(ESRIジャパンが協力できるとの意向があった)。

- ・RDBMSについては社会工学類側で購入可能性について調査する。

以上